

1 美しい川づくり

1 目的

広島駅前を流れる猿猴川やその周辺は、再開発等が進められ、広島の活力やにぎわいを創出する都心としての役割を担うことが期待される重要なエリアであり、かつ、広島を訪れた観光客等が最初に見る水辺空間です。

広島駅周辺地区の水辺を水の都の玄関口にふさわしい、広島の象徴的な空間とするため、広島県と広島市が連携し「美しい川づくり」に向けた取組を行います。

2 事業概要

(1) 取組範囲

駅西高架橋から荒神橋までの猿猴川及び栄橋から荒神橋までの河岸

(2) 取組期間

集中的な取組（駅前大橋～猿猴橋）：平成28年度まで

中長期的な取組（栄橋～駅前大橋、猿猴橋～荒神橋）：平成30年代半ばまで

(3) 取組項目

①集中的な取組

- 1 河川環境の改善（県）
- 2 護岸の改修（県）
- 3 河岸緑地の整備（市）
- 4 猿猴橋の復元（市）

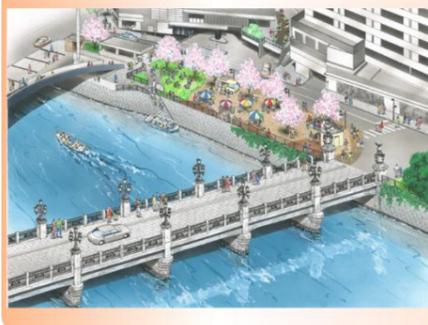
②中長期的な取組

- 1 河川環境の改善
- 2 水上交通との連携
- 3 河岸緑地の整備
- 4 河岸緑地の利活用
- 5 駐輪場移設の検討
- 6 河川環境の維持管理



集中的な取組後のイメージ

Bブロック前の河岸全体を「川の駅」の機能を有する空間として整備



中長期的な取組後のイメージ

広島駅周辺地区の水辺を「水の都ひろしまの象徴的空間」として整備



2 広島駅南口Bブロック市街地再開発

1 目的

広島駅南口Bブロックは、広域交通ターミナルである広島駅に隣接した重要な位置にありますが、老朽建物が密集しているなど、効率的な土地利用がされていない状況でした。

このため、組合施行による市街地再開発事業を実施し、建物の不燃化と土地の高度利用により、都市機能を更新するとともに、商業・業務機能の集積及び都心居住の推進を図り、広島の陸の玄関にふさわしい地区に再生しようとするものです。

2 事業概要

施行者	広島駅南口Bブロック市街地再開発組合
区域面積	1.4ha
主な導入機能	住宅、商業施設、業務施設、駐車場
総事業費	約371億円（公共施設管理者負担金を含む）
目標スケジュール	平成28年度 再開発ビル竣工予定

3 現状及び今後の取組

再開発組合では、平成28年6月の再開発ビル竣工を目指して、建築工事を進めています。

現在、東棟については、一部が完成し、残る部分の基礎工事を、西棟については、床・壁・柱などの躯体工事を進めています。

施行区域図



駅前大橋南詰（左図中の矢印位置）から広島駅南口方面を見た外観イメージ（再開発組合作成）



3 広島駅南口Cブロック市街地再開発

1 目的

広島駅南口Cブロックは、広域交通ターミナルである広島駅に隣接した重要な位置にありますが、老朽建物が密集しているなど、効率的な土地利用がされていない状況でした。

このため、組合施行による市街地再開発事業を実施し、建物の不燃化と土地の高度利用により、都市機能を更新するとともに、商業機能の集積及び都心居住の推進を図り、広島陸の玄関にふさわしい地区に再生しようとするものです。

2 事業概要

施行者	広島駅南口Cブロック市街地再開発組合
区域面積	1.9ha
主な導入機能	住宅、商業施設、駐車場
総事業費	約321億円（公共施設管理者負担金を含む）
目標スケジュール	平成28年度 再開発ビル竣工予定

3 現状及び今後の取組

再開発組合では、平成28年12月の再開発ビル竣工を目指して、建築工事を進めています。現在、住宅棟・商業棟ともに床・壁・柱などの躯体工事を行っています。



エールエールA館(左図中の矢印位置)からマツダスタジアム方面を見た外観イメージ
(再開発組合作成)

4 広島市民球場（マツダスタジアム）周辺地区開発

1 目的

マツダスタジアムを核として、民間事業者による集客施設等の整備により、年間を通して賑わいのある「広島ボールパークタウン」を創出します。

2 事業概要

事業者	三井不動産株式会社
導入機能	商業施設、スポーツクラブ、分譲住宅、屋内練習場、婚礼施設
区画面積	4.4ha（A地区1.8ha、B地区2.6ha）

広島ボールパークタウン
スポーツの感動があふれる街
球場とともに進化する街
事業者：三井不動産株式会社

集客施設予定地(B地区)約2.6ha		
平成20年4月 事業予定者を決定		
平成23年9月 基本計画の承認		
平成23年10月 土地売買契約の締結		
大型商業施設	大型スポーツクラブ	分譲住宅
平成25年3月 オープン	平成24年9月 オープン	平成26年2月 竣工

集客施設予定地(A地区)約1.8ha		
平成20年4月 事業予定者を決定		
平成25年12月 基本計画の承認		
平成26年2月 土地売買契約の締結		
分譲住宅	カーブ 屋内練習場	ゲストハウス型 婚礼施設
平成28年9月 竣工予定	平成27年2月 竣工	平成27年3月 オープン

3 現状及び今後の取組

球場東側のB地区については、平成25年度末までに、すべての施設整備を完了しました。球場西側のA地区については、平成25年12月に事業者から提出された基本計画を広島市が承認しました。現在、順調に整備が進んでおり、平成27年2月にカーブ屋内練習場、同年3月にゲストハウス型婚礼施設が、完成し、平成28年9月に分譲マンションが竣工予定です。

5 広島駅自由通路等の整備

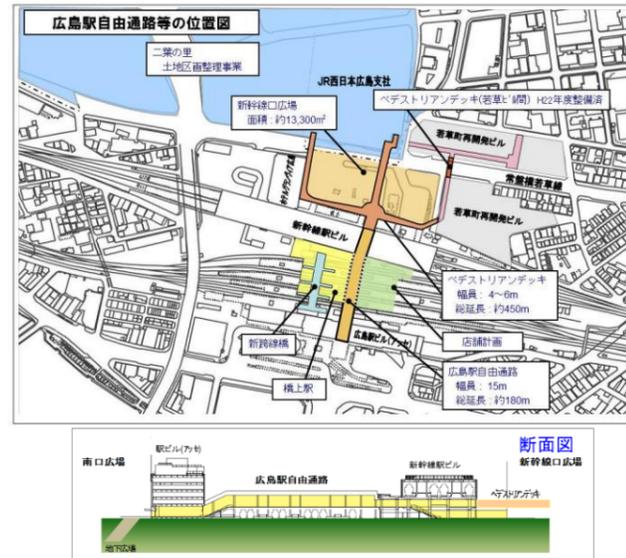
1 目的

広島駅自由通路及びペDESTリアンデッキの整備は、都心の東の核である広島駅周辺地区の一層の「活力とにぎわい」を高めるため、同地区の歩行者の回遊性向上を図るものです。

また、新幹線口広場の再整備により交通機能の適正な配置を図り、新幹線口の交通混雑を緩和します。

2 事業概要

広島駅自由通路	幅員:15m 総延長:約180m
ペDESTリアンデッキ	幅員:4~6m 総延長:約450m
新幹線口広場	約13,300㎡
総事業費	約181億円



広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキの完成イメージ図



広島駅自由通路の完成イメージ図



3 今後のスケジュール（予定）

- 平成27年度 ペDESTリアンデッキの完成
- 平成28年度 新幹線口広場の完成
- 平成29年度 広島駅自由通路の供用
- 平成30年度 仮設構造物の撤去を行い事業完了

6 二葉の里土地区画整理事業

1 目的

二葉の里地区は、大規模な未利用国有地等が存在するなど低・未利用な状況でした。

このため、土地区画整理事業による都市基盤整備を行うとともに、民間主体による計画的な開発の誘導を図り、業務、医療・福祉、都心居住等の機能集積と景観、住環境の両面に配慮したまちづくりを進めています。

2 事業概要

施行者	独立行政法人 都市再生機構（UR都市機構）
施行地区面積	13.8ha（内訳：国有地6.7ha、JR西日本5.7ha、その他1.4ha）
主な導入施設	業務施設、商業施設、住宅、病院、警察署
施行期間	平成22年度～30年度（清算期間5年を含む）
総事業費	45億7千万円



3 今後の取組

本市では、「二葉の里地区まちづくりガイドライン」に基づき、中国財務局等関係機関と連携して開発事業者と協議・調整を行いながら、まちづくりに取り組めます。

7 広島高速道路の整備

1 目的

広島県と広島市が共同で設立した「広島高速道路公社」により、都市圏の自動車専用道路網を指定都市高速道路（有料道路方式）として建設することで、広島市が中枢都市として、市域のみならず広島県全体の活力を生み、中四国地方の発展を牽引していくための基盤となる幹線道路整備を早期に進めるものです。

2 事業概要

広島高速道路は、事業主体である広島高速道路公社において、平成9年度より整備を進めており、これまでに5路線の整備計画路線延長29kmのうち、1号線から4号線までの4路線、延長25kmを供用しています。

道路名	広島高速1号線 (安芸府中道路)	広島高速2号線 (府中仁保道路)	広島高速3号線 (広島南道路)	広島高速4号線 (広島西風新都線)	広島高速5号線 (東部線)
	路線名	県道広島東1号線	県道府中仁保線	市道広島南道路	市道広島西風新都線
区 間	東区福田町から 東区温品二丁目	東区温品町から 南区仁保沖町	南区仁保沖町から 西区新築新築町	西区中広町一丁目から 安佐南区沼田町大字大塚	東区温品町から 東区二葉の里三丁目
延 長 (供用延長)	6.5km (6.5km)	5.9km (5.9km)	7.7km (7.7km)	4.9km (4.9km)	4.0km (-)
車線数	4車線	4車線(一部暫定2車線)	4車線(一部暫定2車線)	4車線	暫定2車線
事業期間	平成9年度～平成29年度				
概算事業費	合計 約3,920億円				

■広島高速道路路線図



3 今後の取組

広島高速5号線については、今後も公社が中心となり、広島県・広島市もサポートし、地域住民の安全確保を第一に丁寧な対応を続け、住民の信頼回復や不安解消に努めながら、トンネル工事発注の準備を進めるとともに、トンネル関係の用地取得等のほか、温品地区及び二葉の里地区の高架橋工事等を引き続き推進します。

8 基町アパートの再整備

1 目的

基町アパートは、中層住宅を昭和31～42年度に、高層住宅を昭和43～53年度に建設し、いずれも建設後30年を超えており、建物が老朽化するとともに、住戸の仕様や規模、設備等が、入居者の高齢化や昨今の生活スタイルの変化などに対応できなくなっています。こうしたことから、老朽化への対応と居住環境の改善を図ることを目的に、住宅の再整備事業を進めています。

2 事業概要

平成12年度から、高層住宅の外壁や設備の改修、中層住宅の外壁や台所等の改修を進め、平成17年度からは高層住宅の住戸の全面的改善などを進めています。

(7) 高層住宅（第18～20アパート、3棟2,964戸）

- ・外壁改修、電気設備(容量増)・給水設備改修
- ・エレベーター改修
- ・住戸の全面的改善

(内部の全面改修・バリアフリー化、アスベスト除去、浴槽・給湯器設置(給湯3か所)、排水設備改修、一部の住戸の規模増改善(2戸1化・3戸2化)等)

(1) 中層住宅（第1～17アパート、22棟(17アパートは6棟で構成)615戸）

- ・外壁改修、屋上防水改修、台所改修等

区 分		平成26年度末の進捗状況	平成27年度 ～34年度
高層住宅	外壁改修、電気・給水設備改修(住戸内を除く。)	3棟 100% (平成17年度完了)	—
	エレベーター改修	34基 100% (平成23年度完了)	—
	住戸の全面的改善	2,964戸 59% (1,760戸)	1,204戸
	アスベスト除去	962戸 100% (平成25年度完了)	—
中層住宅	外壁改修・屋上防水改修等	22棟 100% (平成25年度完了)	—
	台所改修等	615戸 100% (平成21年度完了)	—

3 本年度の取組

高層住宅の住戸の全面的改善について、未着手1,204戸のうち218戸に着手します。

9 広島平和記念資料館再整備事業

1 目的

被爆者の高齢化が進む中、被爆の実相や核兵器の非人道性をより一層わかりやすく伝えていくため、広島平和記念資料館では、平成 22 年 7 月に策定した「平和記念資料館展示整備等基本計画」に基づき、本館建物の耐震化等の整備、常設展示の全面的な更新、観覧動線の変更などの再整備事業に取り組んでいます。

2 事業概要

(1) 建物改修

本館は、建物の外観や主要な躯体部を保存しつつ、耐震補強に係る工事等を行い、東館は、観覧動線の見直しに係るエスカレーターの設置などの内部改修を行います。

(2) 展示整備

常設展示の構成は、「導入展示」、「被爆の実相」、「核兵器の危険性」、「広島のみち」の 4 つの展示ゾーンとします。このうち「被爆の実相」を中心的な展示と位置付け、人間の被害により重点を置いた展示とし、十分時間をかけて観覧できるよう観覧動線を変更します。

(3) 概算事業費

総額 57 億 3,600 万円

施設整備費	42 億 7,000 万円
展示整備費	14 億 6,600 万円

(4) 整備スケジュール

平成 23 年度 ～ 平成 29 年度

3 本年度の取組内容

(1) 施設整備

- ア 東館改修工事の実施（8 月末まで）
- イ 本館改修工事・渡り廊下拡幅工事の実施設計実施

(2) 展示整備

- ア 東館展示整備の実施（平成 28 年 3 月末まで）
- イ 展示検討会議の運営
- ウ 東館の展示資料説明文執筆

(3) 本館発掘調査

10 平和大橋歩道橋の整備

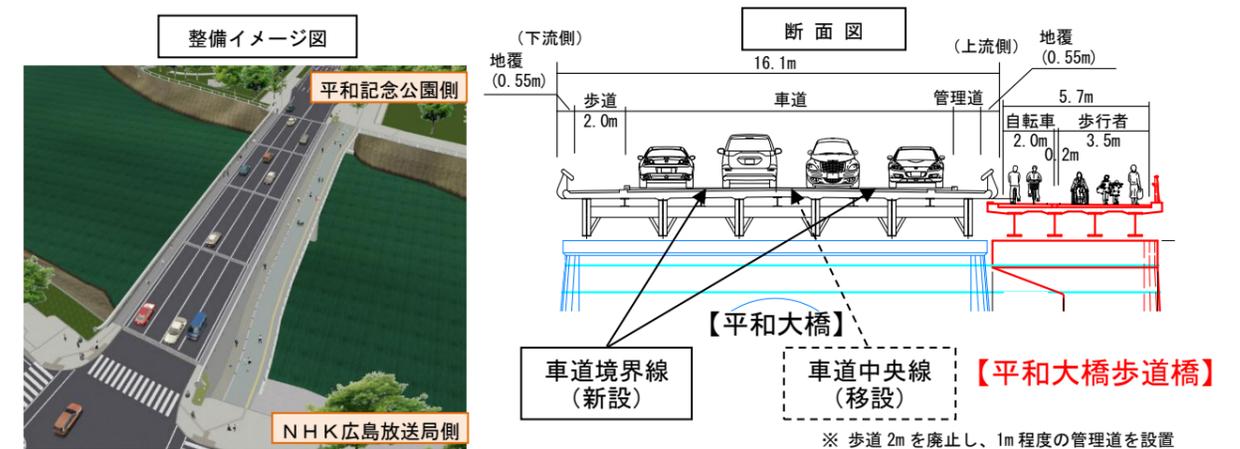
1 目的

平和大橋は、平和記念公園を訪れる多くの人が利用していますが、歩道が狭く、歩行者や自転車の安全な通行に支障をきたしています。

このため、平和大橋の上流側に近接して歩道橋を新設し、安全で快適な歩行者、自転車の通行空間を確保するとともに、平和大橋の北側の歩道を廃止し、その一部を車道に転換することにより、自動車走行空間の改善を図ります。

2 事業概要

橋長	8.6 m
幅員	5.7 m（歩行空間 3.5 m、自転車走行空間 2.0 m、分離帯 0.2 m）
完成年度	平成 30 年度（予定）



3 今後の取組

歩道橋の工事については、本年の秋頃から両岸の橋台工事に着手します。

また、歩道橋の高欄や橋面舗装などについては、広島市都市デザインアドバイザー会議での意見を踏まえながら、イサムノグチ氏がデザインした平和大橋の高欄を引き立たせるデザインとなるよう検討を進めます。

① 袋町裏通りの整備

1 目的

袋町裏通りでは、市内で最大の商店街である本通のすぐ南側に位置しながら、歩行者通行量が本通の1/10と少ないことから、通りのにぎわいや回遊性を高めるため、道路の幅員構成を見直し、歩行者重視の道路整備に向けて取り組みます。

2 現状と課題

平成26年度は、袋町裏通りの一部区間において、地元商店街と共同で一方通行となっている車道の一部を歩行者空間とするとともに、荷捌きスペースを限定するなどの社会実験を実施しました。

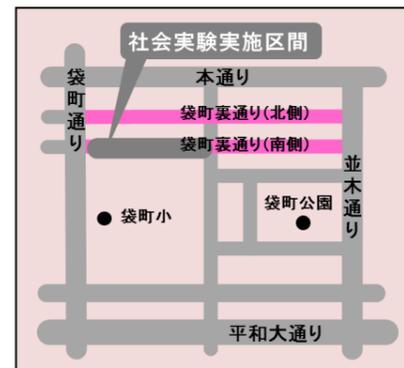
社会実験の結果、歩行者数の増加をはじめ、これらの取組について多くの賛同が得られるなどの成果がありました。

一方で、以下のような検討課題も明らかになりました。

- ア 道路の幅員構成や歩車分離の方法など道路の形態
- イ 周辺地区を含めた自動車利用の抑制方法
- ウ 荷捌きスペースの位置・規模・構造、時間帯を限定した荷捌き活動の可能性

3 今後の取組

平成27年度は、自動車交通の抑制策や荷捌きスペースの配置・規模などについて検討するための実態調査等を実施し、周辺居住者や沿道店舗と市の勉強会を重ねながら検討を深め、地元の合意を得た後に、広島県警など関係者と協議調整を行った上で整備計画を策定します。



位置図



社会実験中の状況

② マツダスタジアム（広島市民球場）への歩行者用道路の整備

1 目的

マツダスタジアム（広島市民球場）へのアクセスは広島駅からの徒歩を基本とし、安全で快適な歩行者空間の確保を図る必要があります。

このため、公共交通機関を利用して同スタジアムに来場できるよう、広島駅と結ぶ歩行者用道路（ペDESTリアンデッキ）の整備を進めます。

2 現状と今後の取組

JR広島駅とマツダスタジアムを結ぶペDESTリアンデッキの整備については、JR西日本をはじめとする関係機関との協議を行い、基本設計を取りまとめているところです。

本年度は、引き続き、関係機関との協議を進めるとともに、実施設計を行い、早期整備に向けて取り組みます。



③ 広島駅南口広場の再整備等

1 目的

広島駅南口広場は、JRとバスの乗り継ぎが不便であるとともに、ラッシュ時に広場に進入できない路面電車が行列待ちとなっています。

また、路面電車の広場への進入ルートが迂回しているため、広島駅と紙屋町・八丁堀地区間の所要時間が長く、路面電車の定時性や速達性の確保が課題となっています。

こうした課題に対応し、利用者の利便性向上の観点に立った公共交通ネットワークの形成を図るとともに、広島駅周辺地区で進展する市街地再開発事業等と一体的なまちづくりを推進するため、路面電車の進入ルートを含む南口広場の再整備に取り組んでいます。

2 事業概要

南口広場へ路面電車を高架で進入させる広場の再整備を行うとともに、市内中心部（段原一丁目、的場町、八丁堀、紙屋町、市役所前、皆実町六丁目）を環状で結ぶ循環ルートを整備します。



3 現状と今後の取組

現在、事業着手に向け、駅ビルの建て替えを計画している西日本旅客鉄道株式会社や路面電車の運営者である広島電鉄株式会社などの関係者と協議・調整を行いながら、南口広場や路面電車の走行空間の基本設計等を実施しています。

平成27年度 基本設計、環境影響評価等

平成28年度以降 都市計画決定手続、実施設計、工事等

④ 旧広島市民球場跡地の活用

1 目的

旧広島市民球場跡地を含む紙屋町・八丁堀地区は、広島駅周辺地区とともに、広島市の活性化を図る上で重要な地区であり、より一層魅力を高めていく必要があります。

球場跡地については、平成24年度末に策定した活用方策及び本年1月に公表した空間づくりのイメージを踏まえ、市民のコンセンサスを得ながら、その活用に取り組めます。

2 球場跡地活用のイメージ

平成24年度末に策定した活用方策では、球場跡地に導入することが望ましい機能を、「文化芸術機能」と「緑地広場機能」を中心とする機能及びこれらを補完する機能とするとともに、「緑地広場エリア」「文化芸術エリア」「水辺エリア」の3つのエリアを設定し、それぞれのエリアに応じて機能を配置することとしています。

また、本年1月に公表した空間づくりのイメージでは、球場跡地について、平和記念公園とのつながりを考慮し、緑豊かなオープンスペースを中心とした空間とするとともに、多様なイベントが開催できる空間とすることとしています。



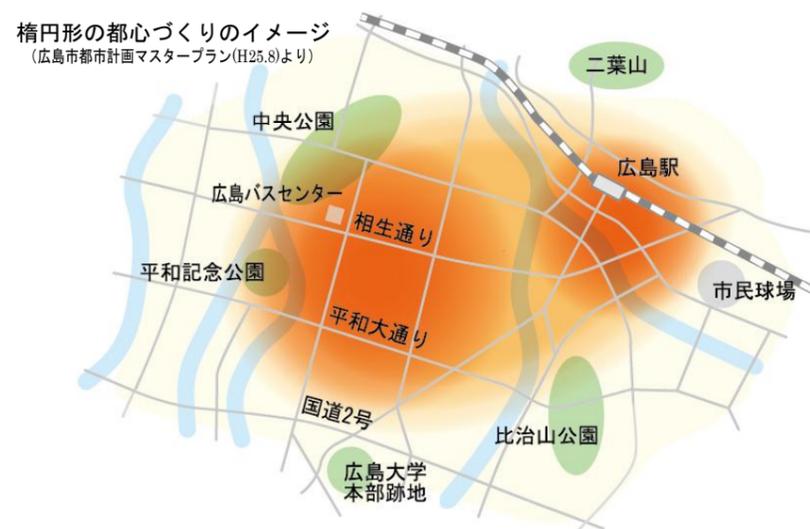
3 今後の取組

球場跡地については、サッカースタジアムの候補地の一つとなっていることから、サッカースタジアムの候補地の決定のプロセスを見極めつつ、基本計画の策定に向けた検討に取り組めます。

⑤ 楕円形の都心づくりを支える歩行環境の整備

1 目的

「楕円形の都心」における東西の2つの核である「広島駅周辺地区」及び「紙屋町・八丁堀地区」、さらに、それらをつなぐ「西国街道を軸とした地区」における、安全で快適な歩行環境の整備計画を取りまとめ、3つの地区の歩行環境改善に一体的に取り組むことにより、楕円形の都心における回遊性の向上とにぎわいの創出を目指します。



2 今後の取組

3つの地区の整備計画を平成28年度末までに取りまとめる予定としており、本年度は以下の取組を行います。

ア 広島駅周辺地区

自由通路やペDESTリアンデッキなどの既定計画と、B・Cブロックや二葉の里地区などの周辺地区を結ぶ歩行者ネットワークの必要性や課題を検討し、不足しているネットワーク等を抽出するとともに、整備イメージの検討を行い、歩行者ネットワーク整備計画の基本方針を取りまとめます。

イ 紙屋町・八丁堀地区

道路幅員や歩道の整備状況、歩行者数、沿道の土地利用などを整理し、にぎわいづくりや回遊性の向上に重要な路線を抽出するとともに、道路条件などにより路線をパターン化し、それぞれについて整備イメージの検討を行うほか、道路が狭い路線については、無電柱化の可能性の検討を行い、歩行環境整備計画の基本方針を取りまとめます。

ウ 西国街道を軸とした地区

歩道の整備状況や周辺の歴史資源、魅力施設等について整理し、連続性のあるにぎわいづくりを進めるための方策を検討します。具体的には、安全で快適な歩行環境や分かりやすい案内サインの整備、特徴ある商店街の振興などの方向性について検討を行い、にぎわいづくり計画の基本方針を取りまとめます。